

大正5年5月5日木藤精一郎創立

やまゆき会会報



令和元年9月号

例 会 報 告

大峰山脈：八経ヶ岳(1915.2m) -乗用車利用山行- 中級 C

7月7日(日) 曇り 担当:藤堂尚久 参加者:7名

現地までは乗用車を利用、いつもの通り大阪駅西側に7名集合、6時10分出発。2時間半で登山口に到着。駐車場管理員は永らく弥山小屋の管理人を務められたN氏であった。大峰山系の最高峰であり、日本百名山に数えられているのが今回の目的地の八経ヶ岳である。また、国指定の天然記念物オオヤマレンゲを鑑賞しようと皆さんが参加された。コースは、距離約10km、標高差820m。多数ある登山道の内、行者還トンネル西口を起点とする最短ルートをとることにした。

駐車場脇の登山口階段を上がり、沢の右岸沿いに道は始まる。丸太のトラス(構造の)橋を渡り左岸沿いの道を行くとやがて奥駈道出合への急登になる。緑の木々や瑞々しい苔群、赤褐色の樹皮のヒメシャラが生い茂る独特の景観の森に分け入る。一方、急坂で足元には浮石あり、木の根は露出し粘土質土壌の道は滑りやすく、1時間を要し大峰奥駈道出合に到る。一変して幅広くなだらかな稜線沿いの道となるが、大峰奥駈修行の道でもある。途中、小さなピークにある弁天ノ森を過ぎ、ブナの原生林を行くと聖宝ノ宿跡に着く。傍らには理源大師像が座している。昔から「触れてはいけない、触れると雨になる」という言い伝えがある。この先は「聖宝八丁」と呼ばれる厳しい登りが延々と続くが、最後に現れた木階段を登りつめると両側苔の道となり、三角屋根の弥山小屋が見えてくる。平成2年、皇太子殿下啓の折に新装されたという小屋やその周辺は登山者達がひと息つける場所、我々も昼食・休憩をとる。

ここから八経ヶ岳へは一旦下り鞍部から登り返す。立ち枯れのトウヒやシラビソが広がる風景も幻想的でよい感じである。シカ除けネットが張られたオオヤマレンゲ保護区に入る。「ここに群生するオオヤマレンゲ」が国指定天然記念物であり、オオヤマレンゲが天然記念物ということではない。今季は時期的にまだ早いのか蕾が多数見られるが、咲いている花も点在し、三分咲きくらい。「天女花」とか「森の貴婦人」とも称されるが、みんなでその白く清楚な花を探しカメラに収めたりしながら先に進む。そして、保護柵を出て坂を登り切り、岩々が折り重なる八経ヶ岳山頂に到着した。錫杖が突き立てられ仏像や沢山の木札が置かれ、修験道の山らしい雰囲気にも包まれている。残念ながら霧が晴れることはなく四方眺望はかなわなかった。数分の滞在の後、弥山小屋まで下山、今度は弥山山頂に向



かった。山頂に鎮座する祠は天川村山麓にある「天河大弁財天社」の奥の院で、能楽と関わりが深いことから芸能の神様として崇められているとのことである。

弥山小屋に戻り、案内板前にて本日最後の記念写真を撮り、もと来た道をたどり下山する。終盤、激下りの滑りやすい箇所も気を抜かず慎重に通過、登山口近くのトラス橋まで下り、下の沢で靴や装備の泥を落とし、登山口・駐車場へ無事帰着となった。深い森を抜け大峰奥駈道や荒漠とした原生林を経て近畿の最高峰八経ヶ岳に登頂、そして季節の花オオヤマレンゲや苔の道に癒されたこの度の山ゆき。最後まで頑張りご協力いただいた皆さんに感謝いたします。

コースタイム

大阪駅前＝行者還トンネル西口(9:00)～奥駈道出合(10:00-10:05)～弁天ノ森(10:30)～聖宝ノ宿跡(11:00-11:10)～弥山小屋(12:10-12:35)～八経ヶ岳(13:10-13:20)～弥山小屋(14:00)～弥山(14:05-14:10)～弥山小屋(14:15-14:20)～(往路戻る)～聖宝ノ宿跡(15:05-15:10)～弁天ノ森(15:40)～奥駈道出合(16:05-16:10)～行者還トンネル西口(16:55)＝大阪駅前

大阪市： 水都大阪の今昔を訪ねて 入門 A

7月7日(日) 晴 担当:浜崎邦男 参加者 22 名

JR 環状線桜ノ宮駅前の入り口で集合。今日の資料を配布して行程を説明し、体験参加者 2 名を紹介して、今日はグレードが入門なのでゆっくり歩く事、歩行マナーを心掛けて、大川(旧淀川)に架かる源八橋①番目の橋(今日これから渡る大阪八百八橋を渡って・くぐって、水



の都の歴史を体感する)を渡り開館していた近畿中国森林管理局・展示ギャラリーで静岡県フェアを見学の後、大川沿いの彫刻の道を散策。泉布観に隣接する旧桜ノ宮公会堂(造幣局の応接所として、明治4年に設置)前で休憩をとる。

見学予定の造幣局博物館が臨時休業のため、桜の宮橋(通称「銀橋」)②をくぐり、川崎橋③をくぐり、淀川三十石船歌の碑、天満の子守歌の碑を見て、天神橋④を

渡る。これより街中の歩行になるので車と人に注意をして、大阪会議開催の地碑(現在は料亭「花外楼」の玄関脇に設置)を見て、大阪証券取引所ビル正面の五代友厚公の碑(大阪経済の発展に大きな影響を与えた)を見た後、なにわ橋⑤を渡り、中の島公園内のバラ公園周辺で、暑さを防ぐため日陰を探し昼食休憩とした。午後の出発の前にバラ公園で集合写真を撮り、大阪中央公会堂の内部を涼みながら見学して、大阪市役所、淀屋橋北詰⑥を渡り、日本銀行大阪支店を過ぎると中之島緑道(全長 400m の遊歩道)の両側に展示している 10 体の現在彫刻を見学しながら、銀橋(大阪古地図を展示)⑦、肥後橋⑧、筑前橋北詰⑨を渡り、

大阪市立科学館及び国立国際美術館を休憩を兼ねて各自で見学する。田蓑橋北詰⑩の側に植わる「蛸の松」(慶安年間に福島正則が植えたといわれており、現在は2代目)を見て、玉江橋⑪を渡り、今日の予定最後の大阪福島天満宮に参拝して、近所に阪神福島・JR 新福島駅があるのでここで解散。

コースタイム

JR 桜ノ宮駅(9:30-9:45)～近畿中国森林管理局(9:50～10:15)～泉布観(10:30-10:45)～大阪証券取引所ビル(11:25)～中の島公園内のバラ公園周辺(11:30-12:30)～バラ公園(12:40)～大阪市中央公会堂(12:50-13:10)～大阪市立科学館・国立国際美術館(13:20-13:45)～大阪福島天満宮(14:10-14:25)

丹波高原(北摂)：箕面 東海自然歩道起点～谷山尾根 初級C

7月14日(日) 曇り時々小雨 担当:植松康子 参加者11名

昨夜の雨で予定をしていた今日のコースを心配しながら霧雨の中、家を出た。阪急箕面駅9時集合。天候がハッキリとしない中11名が集まった。雨がパラパラと降り出した。合羽を着る人、ザックカバーを付けて傘をさす人、スパッツを付ける人それぞれの格好で瀧安寺に向かった。準備体操を済ませて参加者名確認後、コース後半の変更も考えている旨を伝えビジターセンターに向かって出発した。

瀧道を進み紅葉橋を渡り箕面川左岸を通り姫岩に出てライオン岩の横を通り地獄谷口方面に向かい、階段道を上る。ドライブウェイを横切り地獄谷口へ到着。しばらく行くと地獄谷、谷コースと尾根コースの分岐に出る。谷コースを行くと所々昨夜の雨でぬかるんでいた。尾根コースとの合流地点からオヶ原コースを通り、こもれび展望所へ向かった。休憩後こもれび展望口へと少し荒れた道を下りビジターセンターに到着。政の茶屋園地で少し早い昼食とした。



昼食後、予定のコースの変更を伝え(昨夜の雨、また時々降る雨を考え)出発した。車の通らないオヶ原林道は雨に濡れたモミジの若葉が美しかった。林道を右に入り雲隣展望台を通り箕面大滝への荒れて濡れた急な階段を滑らないように注意して下った。ドライブウェイを横切り杉の茶屋の前を通り滝へ出た。雨のおかげでいつもより水量の多い大滝の前で集合写真を撮り休憩後滝道を下った。又雨がポツリポツリと降って来た。

昨年台風で箕面川にまだ残っている倒木の様子を見ながら滝道を阪急箕面駅へと向かった。大江戸温泉の足湯に入りたい方がおられたのでここで解散。

コースタイム

箕面駅(9:10)～瀧安寺(9:23-9:32)～姫岩(9:45)～地獄谷入口(10:06-10:10)～
こもれび展望所(10:30-10:50)～ビジターセンター(11:15-11:45)～雲隣展望台(12:05)～
杉の茶屋(12:20)～箕面大滝(12:30)～大江戸温泉前(13:20)解散

京都北山：嵐山から清滝川・保津峡 初級C

7月21日(日) 曇り 担当:北川弘康 参加者 24名

台風の影響に加え、梅雨前線が居座り、蒸し暑い天候で開催を心配したが、阪急嵐山線嵐山駅前広場には 24 名も参加していただいた。本日のコースを簡単に説明、準備体操を行い速やかに出発する。渡月橋では、天候の影響もあり、平生は多く見られる外国の方も少ないように見受けられた。亀山公園で、衣服調整、小休止する。小倉池から常寂光寺、二尊院を過ぎたが、日差しはないものの、蒸し暑く舗装道路の歩行は辛い。これから試峠に向かう化野念仏



寺前で一息入れる。清滝トンネルができる前は、大勢の人が試峠を超えて清滝から愛宕山にお参りしたものである。トンネルは歩行者も通行出来るようであるが、暗く、狭い上に大型車も通行し注意が必要である。試峠を越えて清滝に出る。バス停を過ぎ愛宕山登山口まで進み、清滝川に架かる金鈴橋から遊歩道に降りる。この辺りは東海自然歩道になっており景色が良いが、今日は水量が多く、景色に見惚れず足元

に注意して進む。適当な昼食場所を探し、落合橋の手前で河原に降りて昼食・休憩とした。

昼食後、清滝川に架かるコンクリートの一本橋で集合写真を撮り、すぐの落合橋から舗装道路に合流した。ここからは、トロッコ保津峡駅や保津川を見下ろしながら、保津川下りの乗客に手を振り悠々と JR 保津峡駅に到着する。

列車到着まで少し時間もある。天候不順で蒸し暑い中でしたが、皆様のご協力が無事の到着を感謝し、解散した。

コースタイム

阪急嵐山駅(10:10)～渡月橋～亀山公園(10:15-10:30)～小倉池～常寂光寺～二尊院～
化野念仏寺～鳥居本(10:50)～試峠(11:10)～清滝(11:30)～金鈴橋(11:40)～清滝川・
昼食(12:00-12:40)～落合橋(13:00)～JR保津峡駅(13:30)解散

北摂： ♪ 波豆川(389.2m)～猪ノ倉山(352m) 初級C

7月28日(日) 曇一時晴れ 担当:石田幸弘 参加者10名

- ・年始に干支の山の例会があった。調べていたら北摂にも低山の干支の山があり実施した。千刈ダムの北にある山には宝塚と武田尾と三田からのバスがあるが便数が少なく、平日はあきらめて日曜日にした。一番遠い宝塚から乗ったから50分のバス旅になった。
- ・猪ノ倉山は宝塚市立宝塚自然の家(自然の家)の北にあり、宝塚市の北限にある。北の三角点波豆川は三田市の山である。自然の家は土日・祝に開かれて、今日も来訪者があるようでスタッフが忙しそう！庭に置いてあるプラスチックの大きな箱をのぞくとザリガニがいっぱい居る。子供たちがスルメを餌につるのだと言う。外来種のザリガニはたんぼの蛙に穴をあけるので農家にとっては天敵だが、子供の遊びには面白いかも…里山遊びはオタマジャクシ、蛙、あめんぼ、小魚、サワガニ、蟬やとんぼ取り、木登りなどいろいろあるが…
- ・自然の家でトイレを借り、体操などの準備をして出発。広い敷地の自然の家の中の三角点の山・法泉寺 254.3mを目指す。付近にはアスレチックの設備があり、休憩の東屋やバンガローが点在する。自然の家の敷地内の最高峰・276mに寄るが展望は良くなかった。
- ・北に登山道を下り、大原野から猪ノ倉峠を越えて木器(こうずき)を結ぶ狭い車道を横断して猪ノ倉山を目指す。西の尾根から北へ、三角点波豆川に1時間ほど費やして引返し猪ノ倉山に着いた。登山道にも木製ベンチがあったが、ここにもベンチやテーブルがあり、昼食。下り口には三級基準点があった。



下りは樹間から北摂の山々が見渡せ、風もそこそこあって里山の景観を楽しんだ。

- ・猪ノ倉峠への車道に降り、青田の横の道を南に下り自然の家に着いた。

梅雨は明けて、晴れても湿度は高く大汗が出る。バスがあればすぐ帰りたいの声！

自然の家前から三田行きのバスは午後には無く、宝塚・武田尾行きには間がある。車道脇を南に歩き、次の予定の三角点天狗松・339.7m が右上に見えるが、無言の了解でバス、終点の西谷ふれあい夢プラザに向かう。10分ほどの余裕で野菜などの買い物をして解散、JR 武田尾行きのバスに乗った。

大汗の里山歩き、三角点を一つパスして、熱中症にもならず全員無事下山出来た。

コースタイム

JR宝塚駅(08:20)・阪急田園バス(8:30)＝宝塚自然の家バス停(09:20)～宝塚自然の家(09:30-09:50)～♪ 法泉寺(10:05)～最高峰・276m(10:30)～北尾根への分岐(11:20)～♪ 波豆川(11:50-11:55)～猪ノ倉山(12:15-12:45)～車道(13:00)～宝塚自然の家(13:20-13:35)～西谷ふれあい夢プラザバス停・解散(13:57-14:13)

両白山地：白山 上級C

7月 28(日)～29(月) 担当:山田昭則 参加者 8 名

7月 28(日) 曇時々晴

白山は、富士山、立山と共に日本三霊山、日本百名山、花の百名山に選ばれハクサンを冠する高山植物が多くある。最高峰は御前峰・一等三角点(標高 2,702.1m)で白山比咩神社の奥宮がある。

JR 北陸本線の金沢駅に到着、バス乗車するが途中で乗換えて 3 時間強の時間を要して別当出合で下車した。曇りがちで時々日がさすが山の上の方はガスがかかっている。今日の 4



時間半の行程は登山道が整備されており、大きな急登がないこと、明日はたくさん高山植物が見られることなど概要を説明して出発した。谷を左岸側に大きな吊橋を渡り、砂防新道をそんなに暑さを感じないがゆっくりペースで登っていった。中飯場では柳谷の上部に不動滝が望めた。ここからは少

し急な登りであるがコースタイムの 1 時間半で甚之助避難小屋に着く。南竜ヶ馬場との分岐点を過ぎてから高山植物が見られるようになり、三ノ越あたりから黒ボコ岩が高いところに見え、少し疲れが出てきてペースが遅くなってきたが延命水で、のどをうるおして頑張って登っていった。黒ボコ岩からは視野いっぱいに弥陀ヶ原が広がりハイマツの樹海の上に御前峰の山容が正面に望めるが山頂付近はガスっている。木道からハイマツ地帯の五葉坂を登りきれば室堂の小屋のはずであるがなかなか着かないのである。やっと登りきると赤い屋根の小屋が見え、休憩時間を入れて 5 時間かけて室堂に登りついた。

コースタイム

JR 金沢駅＝別当バス停(12:35)～中飯場(13:18-13:30)～甚之助避難小屋(15:03-15:15)～南竜道分岐(15:38)～黒ボコ岩(16:40-16:57)～室堂センター(17:25)

7月 29(月) 霧一時雨後晴

午前 3 時に起床、寒さを感じることはないがガスが出て何も見えない。これでは 5 時前のご来光は無理だろうが、4 時前にヘッドランプをつけて登山開始、登山道は登山者の行列である。山頂に着いたがやはりご来光は拝めずで、一等三角点の山頂で集合写真を撮りたかったがここでも行列が出来ていたので、白山奥宮の前で集合写真を撮った。北側のルートを下っていくが、こちらは登山者が少なくてよいけれど依然としてガスで何も見えない。踏み跡を確認しながら下っていると可愛いオコジョがウロチョロしていた。血ノ池のあたりに下り、ここからお花松原に行く予定であったがガスで何も見えないので、3 時間弱を要してお花松原を往復するのを

止めて、お池巡りとお花畑コースで高山植物をゆっくりと眺めながら行くことに変更。お池を巡りながら、室堂への近道とお花畑コースの分岐点である千蛇ヶ池で反対側の大きな雪溪に下り休憩とした。雨が降ってきたので雨具を着て下っていった。ほどなく小雨程度で雨はあがったが、生い茂っているハイマツが濡れているので雨具は着たままで歩いた。平坦なコースに



なって背の低い植物になってきたあたりで、お目当てのクロユリが咲いていた。登山道の両側に茎の丈は10センチほどであるが一杯咲いている。クロユリは恋の花と歌われているが、実際に匂いを嗅いで見たら臭い匂いだった。初めて見る者もそうだが何度見ても見飽きることはないものである。白い花をつけた背の高いコバイケソウの群生、登山道の脇に白から淡い紅色の花をつけたハクサンシャクナゲ、秋には赤く色づくナナカマドの白い花などなどを眺めながら朝食をとる至福のひと時である。室堂の小屋が見えてきたあたりの谷筋に、雪溪があるはずが見当たらず一面お花畑である。このクロユリは背丈が少し高く綺麗だった。40分のコースタイムのところを倍の時間かけて高山植物の群落を満喫した。

室堂でゆっくり休憩し、黒ボコ岩へと弥陀ヶ原の木道下りながら振り返ると御前峰がゆったりと横たわっていた。黒ボコ岩から観光新道を下るのであるが、急下降が多いので、高山植物を眺めたりカメラを構えるときは足元に注意するよう促し下山することとした。背が高く黄色い花をつけたニッコウキスゲが咲き乱れ、シモツケソウ、ハクサンチドリなどなど高山植物の群落である。珍しいものでは、クマザサの花が咲いているのがあった。竹類はイネの仲間では花が咲くと枯れてしまうのである。殿ヶ池避難小屋で周囲の山並みを眺めながらゆっくり休憩の後最後の長い下りである。特に階段状の危険な急下降では踏み外して落ちると下の者も落ちるので、間隔を空けてゆっくり注意しながら下っていった。沢から水の流れる音が聞こえるが少々疲れが出てきたのか意外と時間を要して別当出合に下山した。ご来光は拝めなかったが、クロユリをはじめ多くの高山植物を眺めることが出来、満足の山歩きであった。ここで解散としたが、市ノ瀬までバスで下って温泉で汗と疲れを洗い流した。

コースタイム

室堂センター(03:50)～御前峰(04:40-05:20)～お花松原との分岐(06:00)～千蛇ヶ池(分岐)
(06:05-06:25)～室堂センター(08:00-08:33)～黒ボコ岩(08:57-09:02)～殿ヶ池避難小屋
(10:00-10:35)～別当出合(13:32)